

## 千曲RUNベストファーザー賞 大山 敦史さん

「パパみたいにマラソン速くなる。」4歳の息子が言った。

30代で経営者である私は昼夜問わず仕事に没頭して運動とは無縁の生活だった。ある日、家から近いコンビニへ走り出した。軽い気持ちだったが、疲れ切った自分に衰えを感じた。そんな自分に耐え兼ね走る事を決意したが、子供が生まれ間もなく、休日は育児、平日は普段の業務で走る時間は無かった。ある日、友人に誘われて大会に出た。4キロコースで予想以上に順位が良かった。私でも誰かに勝つことができた。その結果が走らせた。生活で一番支障のない早朝に練習をした。仕事や家庭から縛られない夜明け、その時間で自由になれた。そして副作用をもたらせた。仕事で朝から冴え、家庭でも休日に朝食の準備をするほどに。息子はそんな私を見てか、一緒に走るのが好きになった。大会で完走した後、息子が誇らしげに私を見ているように思えた。息子が運動会の徒競走で一番になった時言った「パパみたいにマラソン速くなる。」親馬鹿かもしれないが、いつしか私より早く走り優秀なアスリートにでもなる気がした。息子は親を超えていくものだが、それまでは息子にとって目標になれる父親となり走り続けるだろう。

そんなRUN ライフも悪くない。

